

上山市学校施設長寿命化計画

概要版

1 学校施設の長寿命化計画の背景・目的等

本市には、小学校4校、中学校3校、小中一貫校1校の計8校の学校施設があります。上山小学校を除く7校は建築後30年以上を経過しており、そのうち中学校3校の校舎は建築後50年以上を経過し、老朽化が進んでいることから、限られた予算の中で施設整備と並行して老朽化対策を行っていく必要があります。加えて、学校に対するニーズは多様化しており、多様な学習内容や形態への対応、生活空間の快適化、防災対策など、様々な配慮が求められています。今後は長寿命化対策を計画的に行い、学校施設を適正に維持管理していく必要があります。本計画は5年ごとの見直しをすることとしていますが、本市の教育に関する状況の変化を踏まえ、今回の見直しを行うこととしました。

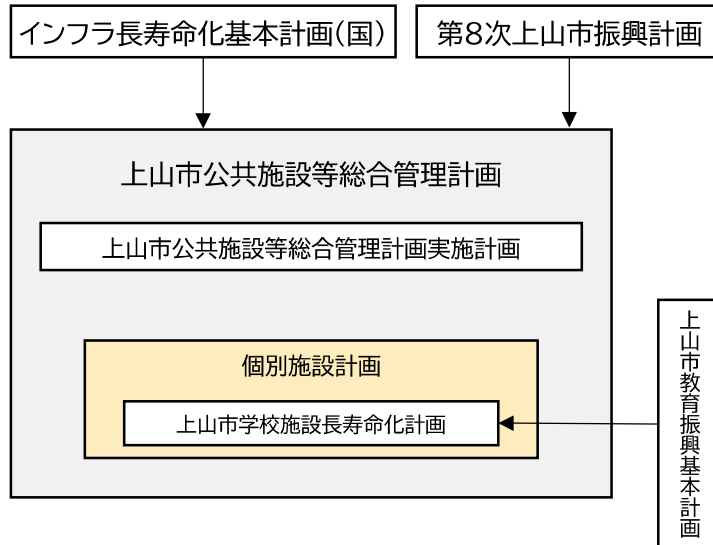
以上のような背景や『上山市公共施設等総合管理計画』に基づき、施設の老朽化状況等を把握し、総合的な観点で長寿命化や改修、修繕を行うことにより、トータルコストの縮減と予算の平準化を図ることを目的として本計画を策定します。

対象施設

対象施設	施設数
小学校	4校
中学校	3校
小中一貫校	1校

位置付け

『上山市公共施設等総合管理計画』の中の学校施設の個別施設計画として位置付け、関連計画である『上山市教育振興基本計画』と整合を図りながら策定するものとします。



計画期間

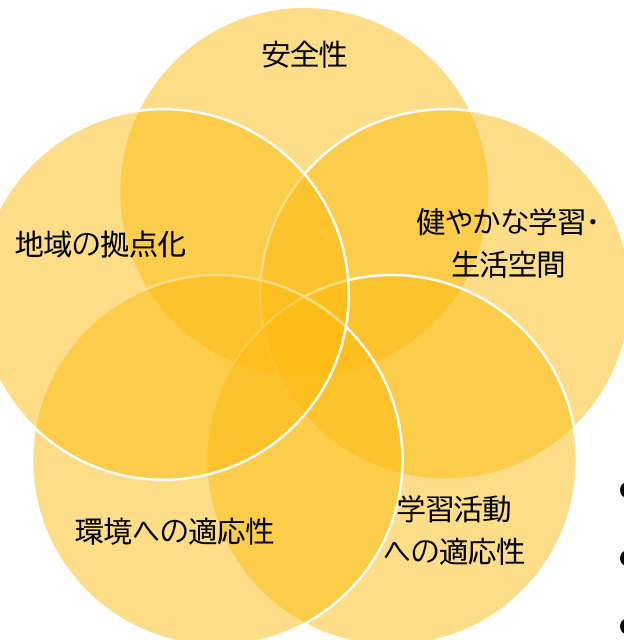
令和2(2020)年度から令和42(2060)年度までの40年間を実施計画とし、5年ごとに見直しを行います。

2 学校施設の目指すべき姿

上位関連計画の内容を踏まえ、それらの施策を実現するため、以下の観点から本市の学校施設として目指すべき姿を設定します。

- 災害に強い学校施設
- 老朽化した設備や建物の適切かつ計画的な更新
- 児童生徒が安全・安心に利用できる学校施設

- 地域住民の避難所
- 災害に強い学校施設
- 地域住民が安全・安心に利用できる避難環境
- 地域の拠点としても柔軟に利活用可能な空間



- バリアフリーやユニバーサルデザイン化の実現
- 校務効率化を支援するICT環境
- 地域住民が安全・安心に利用できる避難環境

- ICT環境とその学習サポート体制
- 多様な学習や社会情勢の変化への柔軟な対応
- 多様な考え方に触れ、社会性を養い、確かな学力を獲得できる環境

3 学校施設の実態

児童生徒数・学級数の変化

本市の児童生徒数は令和6(2024)年5月1日現在で1,593人、学級数は通常学級64(うち、複式学級1)となっており、児童生徒数の減少が続いています。令和7(2025)年度には児童数が、令和15(2033)年度には児童生徒数が1,000人を切る見込みです。

施設関連経費の推移

令和元(2019)年度から令和5(2023)年度までの直近5年間の学校施設関連経費は、5か年の平均で約3.6億円／年となりました。うち、改修費、次いで光熱水費が高い割合を占めています。

(千円)

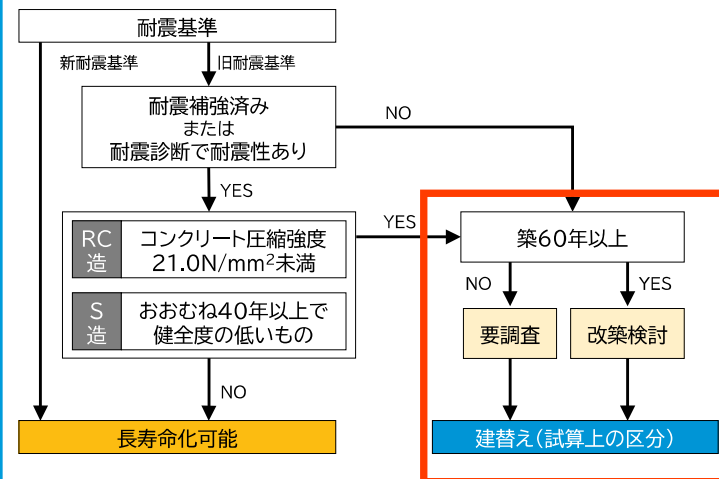
	H27	H28	H29	H30	R元	R2	R3	R4	R5	直近5年平均
新築・改築費	472,849	561,343	159,805	0	0	0	0	0	0	0
改修費	146,953	58,722	40,420	207,919	141,662	47,717	89,338	170,800	788,160	247,535
その他施設整備費	0	0	0	0	7,479	86,229	0	440	0	18,830
経常修繕費	6,064	4,320	5,026	5,499	5,306	5,533	5,700	6,800	6,312	5,930
維持修繕費	12,577	12,703	14,639	15,191	13,290	14,369	16,387	15,006	7,668	13,344
光熱水費	64,203	63,951	66,063	66,836	64,824	68,397	68,581	75,136	72,708	69,929
施設関連経費合計	702,646	701,039	285,953	295,445	232,561	222,245	180,006	268,182	874,848	355,568

学校施設の保有量

対象施設を建築年度別に見た場合、延床面積の割合で、築30年未満の建物が約20%、築30年以上40年未満が約15%、築40年以上50年未満の建物が約28%、築50年以上の建物が約37%となっており、築30年以上の建物が、全体の約80%に達しています。

構造躯体の健全性の評価

当該建物が、長寿命化改修に適しているかどうかについて、以下のフローに基づき簡易判定を行いました。



構造躯体以外の劣化状況等の評価

建築士による目視調査等を行い、部位ごとの劣化状況について、A、B、C、Dの4段階で評価し、建物ごとの健全度を算出しました。

健全度＝(部位の評価点×部位のコスト配分)÷66

評価	基準(概要)	評価点	部位	コスト配分
A	おおむね良好	100	屋根屋上	4.2
B	部分的に劣化	75	外壁	14.9
C	広範囲に劣化	40	内部仕上	21.3
D	要早急な対応	10	電気設備	9.0
			機械設備	16.6

		(100点満点)	
施設名		長寿命化	健全度
上山小学校	校舎	長寿命化可能	64
	屋内運動場	長寿命化可能	90
南小学校	校舎	一部要調査	48
	屋内運動場	長寿命化可能	43
宮川小学校	校舎	長寿命化可能	45
	屋内運動場	長寿命化可能	85
中川小学校	校舎	長寿命化可能	72
	屋内運動場	長寿命化可能	67
西郷小・中学校	校舎	長寿命化可能	64
	屋内運動場	長寿命化可能	61
南中学校	校舎	改築検討	48
	屋内運動場	長寿命化可能	61
	武道場	長寿命化可能	75
北中学校	校舎	要調査	57
	屋内運動場	要調査	51
	武道場	要調査	49
宮川中学校	校舎	改築検討	31
	屋内運動場	長寿命化可能	75
	武道場	長寿命化可能	75

※ 校舎の健全度は各校舎の平均値を表示しています。各建物の詳細は計画本編を参照ください。

4 学校施設整備の基本的な方針等

1 長寿命化の推進

不具合が生じてから修繕を行う「事後保全」的な維持管理だけでなく、中長期的な視点で計画的な修繕を行う「予防保全」的な維持管理を行いながら、学校施設の長寿命化を推進します。

2 不具合への早期対応

定期点検等の結果から、異常が認められる施設について、早期に修繕、改修などの対策を講じます。

規模・配置計画等の方針

今後も複式学級や小規模校が増加していく見通しから、「上山市みらいの学校構想検討委員会」においての学校の将来の基本的な在り方についての検討結果を踏まえて方針を決定するものとします。

改修等の基本的な方針

中長期的な視点に立ち、計画的に予防改修と長寿命化改修を行い、学校施設を健全な状態に保ちつつ、可能な限り長く使用することを基本的な方針とします。目標使用年数を80年と設定し、中間年である40年に長寿命化改修、さらにその中間年の20年、60年に予防改修の周期を設定します。

5 基本的な方針等を踏まえた施設整備の水準等

- 経年劣化に対しては、物理的な耐用年数や保守点検等の結果を目安に改修工事を行うものとします。工事にあたっては、耐久性に優れた材料及び工法、省エネルギー効果の高い機器を選定します。
- 社会的要求に対しては、学ぶ場と働く場の環境整備、児童生徒が安全・安心に利用できる環境整備を行います。
- 各施設の状況に応じて日常点検・周期点検・法定点検を取り入れた維持管理を実施します。

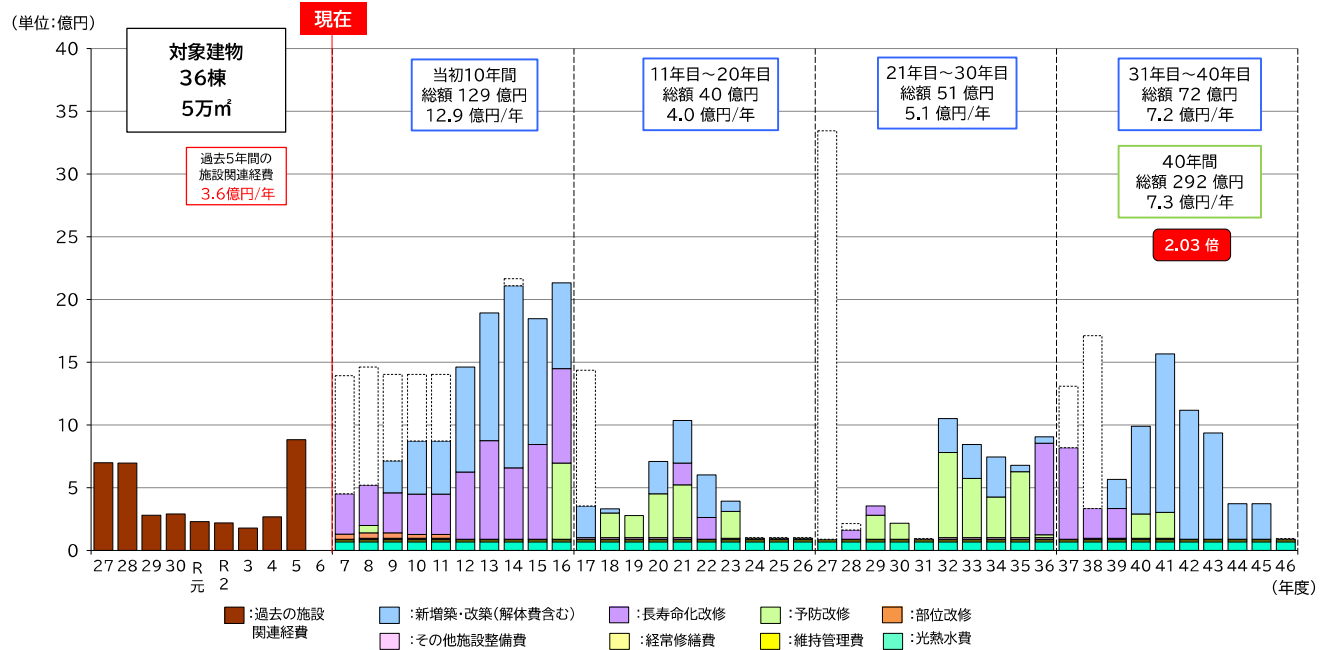
6 長寿命化の実施計画

改修等の優先順位付け

予防改修、長寿命化改修の周期を基本とし、定期点検結果による老朽化の状況を考慮して改修等の優先順位を決めていきます。また、社会的ニーズへの対応等、必要な改修も合わせて検討します。

長寿命化コストの見通し・今後の課題

長寿命化型の試算では、従来型と比較して平準化の効果が見られましたが、直近の施設関連経費の約2.03倍のコストがかかります。長寿命化改修等の実施にあたっては、建物の詳細な調査を行い、長寿命化による費用対効果を確認するとともに、その時の児童生徒数や学級数、市の財政状況に応じた最も合理的な方策を検討し、経費削減に向けた取組を行うことを今後の方針とします。児童生徒数が減少する中で、施設の維持・更新コストが増加するという矛盾を生じさせないように、総合的な観点で施設の維持管理を行い、トータルコストの縮減と予算の平準化を図ります。



従 来 型：建築後40年で改築を実施すると仮定した場合
長寿命化型：長寿命化対象の建物について、目標耐用年数を80年と設定した場合

実施計画

令和7(2025)年度から令和12(2030)年度は以下の工事を行います。ただし、実施年度や実施内容は市の財政状況や施設の状況等により変更となる場合があります。

上段：長寿命化改修／下段：環境改善

施設名	R7(2025)	R8(2026)	R9(2027)	R10(2028)	R11(2029)	R12(2030)
上山小学校		外壁改修 非常通報装置整備	照明LED化(校) 空調整備(図書)	つらら対策(校)	プール改修	
南小学校		外部床改修	外壁・外部建具改修 グランド改修 受変電設備改修 建具改修(屋)	給排水管更新		
	トイレ洋式化(校、屋) 多目的トイレ整備(屋)	非常通報装置整備				
宮川小学校		照明LED化(屋) 非常通報装置整備		給水管更新 グランド改修 照明LED化(校)		外壁改修 屋上防水改修
中川小学校	放送設備更新 外灯改修	照明LED化(屋) 非常通報装置整備	多目的トイレ・ スロープ整備(屋)	照明LED化(校)		
西郷小・中学校	照明LED化(校、屋) トイレ洋式化(校、屋)	非常通報装置整備	引込高圧ケーブル更新		外壁改修(校)	外壁、屋根、 外部建具改修(屋)
南中学校		非常通報装置整備 トイレ洋式化(校、屋、武) 多目的トイレ整備(屋)	外壁改修 給水管更新 排水管洗浄(一部)			
北中学校	美術室床改修 受変電設備改修 放送設備改修 照明LED化(校、屋)	非常通報装置整備 エアコン設置(特教)	天井・内部壁改修 (武)	外壁改修 外部バルコニー改修 校舎渡り廊下改修	外壁・屋根・樋改修 (校、屋、武)	
宮川中学校	昇降口屋根改修 (防水)	照明LED化(屋) 非常通報装置整備	照明LED化(校)			

校：校舎、屋：屋内運動場、武：武道場、特教：特別教室

7 長寿命化計画の継続的運用方針

情報基盤の整備と活用

学校施設を安全・安心に使用する適切な維持修繕のため、情報の基礎となる学校施設台帳といった施設建物情報や工事履歴、保守・維持管理委託情報をデータ化し、統一した様式にて一元的な管理を推進します。
また、学校施設に関する業務の主管課である教育企画課を中心に、3年ごとに実施する建物の定期点検結果も有効に活用していきます。

推進体制の整備

本計画は、学校施設を所管する教育委員会で進捗管理を行います。教育委員会内部においても情報共有を図りながら、計画内容を調整していきます。
また将来的には、他施設との複合化や共用化も見据え、教育委員会だけでなく、市長部局と一体となり、全庁的な視点から検討を進めるため、部局横断的な検討体制の構築を目指します。
さらに、市全体の公共施設の適正な維持管理に向け、本計画の上位計画である『上山市公共施設等総合管理計画』においても取組状況を検証するものとします。

フォローアップ

5年毎を目途に、取組の進捗を管理する手法として、「計画(PLAN)－実施(DO)－評価(CHECK)－改善(ACTION)」のいわゆるPDCAサイクルを確立していきます。



発行年月／令和3(2021)年2月
改訂年月／令和7(2025)年3月
発 行／上山市教育委員会
編 集／上山市教育企画課
〒999-3192 山形県上山市河崎一丁目1番10号
TEL 023-672-1111
FAX 023-672-3001